

# ダコニール 1000

ダコニール株式会社エス・ディー・エス・バイオテックの登録商標です。  
●登録商標：テトラコロン・フロン・ドリン (TM) ©2018



**重要病害 炭疽病に高い予防効果、長い残効、芽のバラつきに強い**

- 新葉は開葉後10日間以上感染の危険にさらされている。
- 三番茶や秋芽、更新圃は芽のバラつきが大きい。

**主要病害の多くを同時に防除**

炭疽病、褐色円星病、網もち病、新梢枯死症、黒葉腐病、もち病

**3 摘採 10日前まで使える**

茶に対する適用病害と使用方法 (抜粋)	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用濃量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	17℃を基準とした防除効果 (約)
炭疽病、もち病、輪斑病、新梢枯死症 (輪斑病による)	炭疽病	700~1000	200~400 g/10a	摘採 10日前まで	※1回	散布	※1回
	もち病	1000					
黒葉腐病、灰色かび病		700					

※ダコニール 1000 は各茶期 1回使用できます。  
(ダコニール 1000 の除菌後、次の茶期までに複数回必要です。)

炭疽病・新梢枯死症の同時防除も700~1000倍でOK!!

**更に詳しい情報はこちら!**

QRコードで簡単アクセス!  
ダコニール 1000 倶楽部  
お茶専用のコーナーがあります

この印刷物の記載内容は 2018年6月末日現在のものです。 1522(18-3)M 2018年6月作成

## ダコニール普及会

# 茶の病害虫とその防除

**病害虫防除の考え方**

- 過期防除が最も重要
- 基幹防除を的確に実施
- 特長を活かした薬剤の選択、ローテーション防除が必要
- 翌年産茶の良質・安定生産のため、秋期防除(三番茶不摘採園では三番茶期)を徹底

茶の病害虫の写真や防除のポイントなどが満載!!

病害虫防除に役立つ情報をわかりやすく紹介する情報サイト  
**ダコニール 倶楽部** Daconil Club  
<http://daco-club.com>

## 茶園管理のお手伝い

# ダコニール 1000

ダコニール株式会社エス・ディー・エス・バイオテックの登録商標です。

# 茶の病害防除で大切なことは 摘採後に残る葉を守ること!

**三番茶・摘採する三番茶**

摘採される。3, 4, 5, 6

以後の感染源となる下位1葉を守ることが重要!

**守るべきは下位1葉**

- 重要病害は炭疽病。
- 炭疽病は主に新葉の上位3枚以上に感染し、14~20日で発病。つまり上位葉は炭疽病に感染しても発病する前に摘採されてしまうため問題なし。
- 防除時期は萌芽期~1葉期。下位葉をしっかり守るには長い残効性が必要。

ダコニール1000の「萌芽期~1葉期散布」が効果的!

**摘採しない三番茶・秋芽**

摘採、整枝される。5, 6, 7, 8

翌年一番茶の親葉となる越冬葉層を守ることが重要!

**翌年一番茶のために体系防除が必要**

- 褐色円星病は新葉を主体に硬化した成葉にも感染。感染期間が非常に長い。
- 体系1回目は残効が長く茶芽のバラつきに強いダコニール 1000 で防除。

お薦めの体系防除!  
ダコニール 1000 の「萌芽期~1葉期散布」+ DMI 剤の「3~4葉期散布」(+褐色円星病発生園では開き後~硬化初期に追加散布)

**強み1/ 高い予防効果** 炭疽病に対する予防効果と残効の比較 (1)

**強み2/ 長い残効** 炭疽病に対する予防効果と残効の比較 (2)

**強み3/ 芽のバラつきに強い**

この3つの強みがあるから、基幹殺菌剤はダコニール 1000 なのね。

降雨などで萌芽期~1葉期散布ができなかったときは...

**3葉期頃の「ダコニール 1000 と DMI 剤の混用散布」が効果的です。**

治療剤があるから、炭疽病の予防散布はしなくても大丈夫...なんて思っていますか?

**感染してからの後追い防除では発病を止めきれず防除効果が十分に発揮されない場合があります。**

# 茶期ごとの病害虫防除

三番茶を摘採しない園	一番茶	二番茶	三番茶	秋芽生育期
防除時期: 一番茶萌芽前、一番茶萌芽前後、摘採後	防除時期: 萌芽期~1葉期、摘採(整枝)直後	防除時期: 萌芽期~1葉期、摘採(整枝)直後	防除時期: 萌芽期~1葉期、摘採(整枝)直後	防除時期: 萌芽期~1葉期、3~4葉期
主要病害: 赤焼病	主要病害: 炭疽病、もち病、黒葉腐病	主要病害: 炭疽病、新梢枯死症、褐色円星病、網もち病	主要病害: 炭疽病、新梢枯死症、褐色円星病、網もち病	主要病害: 炭疽病、新梢枯死症、褐色円星病、網もち病
主要害虫: ハダニ、チャコナジラミ	主要害虫: ハダニ、カムシ、アブラムシ	主要害虫: ウンカスリップス、ホガ	主要害虫: ウンカスリップス、ハマキムシ、ホガ、シャクトリムシ	主要害虫: ウンカスリップス、ハマキムシ、ホガ、シャクトリムシ

三番茶を摘採する園	一番茶	二番茶	三番茶	秋芽生育期
防除時期: 一番茶萌芽前、一番茶萌芽前後、摘採後	防除時期: 萌芽期~1葉期、摘採(整枝)直後	防除時期: 萌芽期~1葉期、摘採(整枝)直後	防除時期: 萌芽期~1葉期、摘採(整枝)直後	防除時期: 萌芽期~1葉期、3~4葉期
主要病害: 赤焼病	主要病害: 炭疽病、もち病、黒葉腐病	主要病害: 炭疽病、新梢枯死症、褐色円星病、網もち病	主要病害: 炭疽病、新梢枯死症、褐色円星病、網もち病	主要病害: 炭疽病、新梢枯死症、褐色円星病、網もち病
主要害虫: ハダニ、カムシ、アブラムシ	主要害虫: ウンカスリップス、ホガ	主要害虫: ウンカスリップス、ホガ	主要害虫: ウンカスリップス、ハマキムシ	主要害虫: ウンカスリップス、ハマキムシ、ホガ、シャクトリムシ、チャコナジラミ

**赤焼病** ... 常発園では春整枝直後に防除。また初発を確認したら早めに防除。

**ハダニ** ... 平均気温が10℃を超え、産卵・幼虫が見えたら防除。越冬後、増加初期の防除がもっとも重要。

**ハダニ、カムシ、アブラムシ** ... 実害は少ないので、発生が多いときのみ防除。

**ハダニ、カムシ、アブラムシ** ... 実害は少ないので、発生が多いときのみ防除。

**カムシ** ... 発生最盛期7~10日後の若齢幼虫(刈茶摘採後)に防除。

**アブラムシ** ... 多発園では、刈茶摘採後早目に防除。越冬後下位葉には、天敵と併用して減少。

**チャコナジラミ** ... 幼虫ふ化最盛期防除(5月~7月~9月)。防除効果が最も高い「第1世代の防除(5月)」が重要。葉液が枝内の枝に十分かかるように散布。

**炭疽病** ... 予防散布が重要。梅雨時に茶芽が生育する地域では特に注意。

**黒葉腐病** ... 高温多湿が続くと局部的に発生。適播種にならないように注意。樹勢が強い芽の生育が良い実況している園は特に注意(ゆたかみどり等)。

**ウンカスリップス** ... 雨が少ないと多発。芽の生育初期の加害は被害が大きい。ウンカスリップスだけを防除する場合は、摘採後~萌芽期に防除。

**ホガ** ... 品質への影響が大きい。1葉期頃に産卵・幼虫の葉濡りが多く見られる園では直ちに防除。ホガの防除適期は1葉期頃。2~3葉期以降に産卵がみられるも、10日以内に摘採する園では被害を回避できる場合もある。

**二番茶摘採もしくは整枝直後** ... 三番茶摘採もしくは整枝直後

**輪斑病** ... 摘採・整枝直後の散布が効果的。特に「やぶきた」園の降雨時の摘採には注意。以降に発生する新梢枯死症を予防するため、ここで伝染源となる輪斑病を防除しておくことが重要。

**病害虫防除の最重要期!** 体系散布で葉層形成部となる1~4葉を守りましょう。

**炭疽病、もち病、網もち病** ... 越冬葉層を形成するこの時期(芽)の防除が重要。

**褐色円星病** ... 炭疽病と同時に防除。発病の多い園では開圃から硬化した成葉にも追加防除が必要。

**新梢枯死症** ... 包葉脱落時に降雨が続くと多発。

**ウンカスリップス** ... 雨が少ないと多発。増殖力が強いので、初期防除が遅れないよう注意。

**ハマキムシ、ホガ、シャクトリムシ** ... 若齢幼虫期に防除。

**三番茶不摘採園の秋芽生育期** ... この時期の防除も重要! 害虫は上記に同じ

**赤焼病** ... 翌年の発生源となるため、しっかり防除。

# 茶の害虫

発生初期(ふ化~若齢期)の防除が基本です。

ダコニール1000には殺虫効果はありません。

害虫	生態と被害
カメノキ	●春期及び秋期に発生。乾燥した天候が続くと多発。 ●葉裏に寄生して吸汁加害。新葉は黄色に変色、被害落葉。
チャコナジラミ	●成虫・幼虫が新芽や新葉を吸汁加害。 ●乾燥すると急増。 ●被害新芽は黄化・萎縮し、褐変枯死。
アブラムシ	●新芽・新葉表面・新梢を吸汁加害。 ●新芽生育時に乾燥が著しく多発。 ●萌芽時期に乾燥は新芽の生育を止め、被害が大きい。 ●被害芽・葉は裏面にスジ状に黒褐変・萎縮。
ホガ	●年6~7回、新芽の生育時期に発生。 ●新葉に産卵・葉濡り・葉緑食害後、4齢以降三角巻葉し、その中で多発。 ●三角巻葉内虫糞により、品質が悪く低下。
カムシ	●主に年3回発生し、幼虫ふ化最盛期は5・7・9月。産卵・幼虫ふ化時期に降雨が最少乾燥した年は多発。発生・被害拡大が早い。 ●枝葉を吸汁加害。
アブラムシ	●年4~5回発生し、幼虫は越冬。●新葉に産卵し食害。●コカクモンハマキは全面、チャハマキは部分的に加害。
シャクトリムシ	●年3回発生。6月頃から増加し、秋芽生育期頃の被害が大きい。 ●大型型目害虫で新葉・成葉を激しく食害。
ハマキムシ	●チャノガサビダニ(サビダニ)は4月~6月・9月~11月に発生が多く、主に新葉の葉裏を加害。 ●チャノホコリダニ(ホコリダニ)は8月中旬頃から発生が多くなり、若芽の表面に群生・加害。
チャコナジラミ	●成虫は年3~4回発生し、幼虫が越冬。 ●多発すると圃場一面に成虫が乱舞し、作業性が低下。 ●幼虫が寄生した枝では、すす病が発生し光合成能が低下。

# 茶の病害

発生前からの予防散布が基本です。

病害	発病条件と被害
炭疽病	<b>最重要</b> ●雨の多い二、三番茶期、秋芽生育期に多発。 ●新葉の毛茸から感染し、14~20日で発病。 ●感染には10時間以上の濡れ時間が必要。
褐色円星病	<b>重要</b> ●多雨・多湿条件下で葉の気孔から感染。はじめ緑斑状を生じ褐色円星状に進展。 ●感染期間が長く、新葉を主体に硬化した成葉にも感染。 ●潜伏期間は約1ヶ月。
網もち病	<b>重要</b> ●三番茶(三番茶不摘採園)と秋芽の生育期(三番茶摘採園)の上位3葉位までの新葉のみに感染。多湿条件が続くと発生。 ●潜伏期間は約1ヶ月で10~11月に発病。
輪斑病	<b>重要</b> ●摘採・整枝により生じた葉や枝の傷口から感染。5~7日で発病の小斑点、10~15日で大型病斑を発生。 ●雨天時に摘採や整枝を行うと多発。 ●暴風雨による発生発病時にも注意。
黒葉腐病	<b>注意</b> ●高湿多雨・多湿条件が続くと二、三番茶期に発生。 ●直接被害は軽微。多肥栽培条件下で発生しやすい。 ●病勢の拡大は非常に早く、新葉・成葉とも集団的に黒色に腐敗。
新梢枯死症	●輪斑病が包葉の脱落直前から感染して発生。 ●輪斑病多発園で発生しやすく、包葉や不完全葉の多くが脱落する萌芽~2・3葉期に降雨が感染くと多発。 ●感染約40日後に新梢が枯死。
もち病	●山間地の風通しの悪い茶園等で局部的に発生。 ●二番茶と秋芽生育期に降雨・多湿条件が続くと多発。感染後約10日で発病。 ●摘採時に発病芽が混入。
赤焼病	●晩秋から早春に発生。傷口から感染し、整枝等で伝染。 ●寒害・霜害により発生が助長。 ●幼木や弱い品種では、台風来襲時にも発生。